

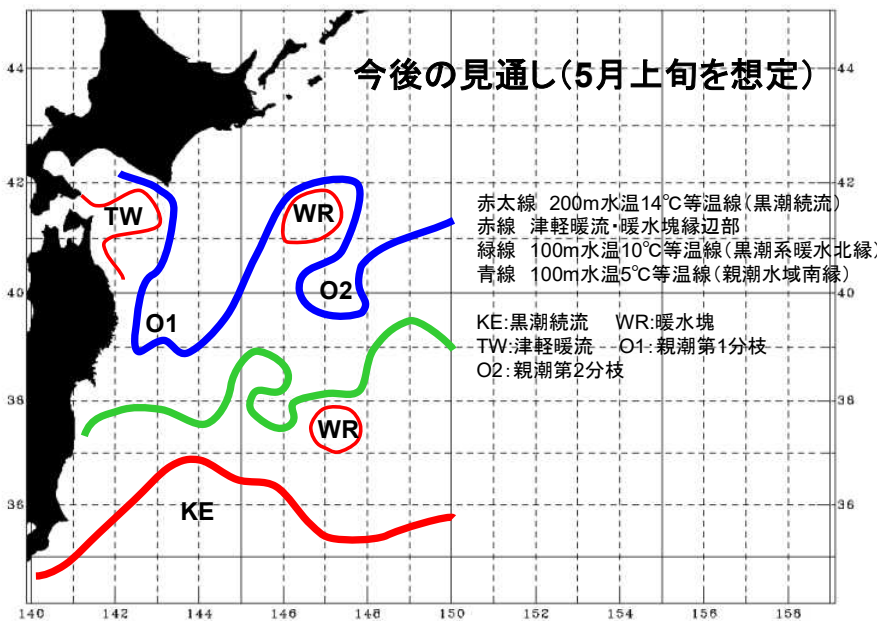


2019年度 第1回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
東北区水産研究所、北海道区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2019年4月下旬～2019年5月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置はかなり北偏～極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で推移する。
- ・ 下北半島はるか沖の暖水塊は停滞し、金華山沖の冷水域は消滅する。



問い合わせ先

国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所 業務推進部
担当：業務推進部 杉崎、樽井
資源環境部 栗田、奥西
電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2019年度東北海区海況予報 第1号

《今後の見通し（2019年4月下旬～5月）》

近海の黒潮統流の北限位置はかなり北偏～極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で推移する。下北半島はるか沖の暖水塊は停滞する。金華山はるか沖の暖水塊は常磐はるか沖に南進する。金華山沖の冷水域は消滅する。

《海況の経過（2019年2月～4月上旬）の特徴》

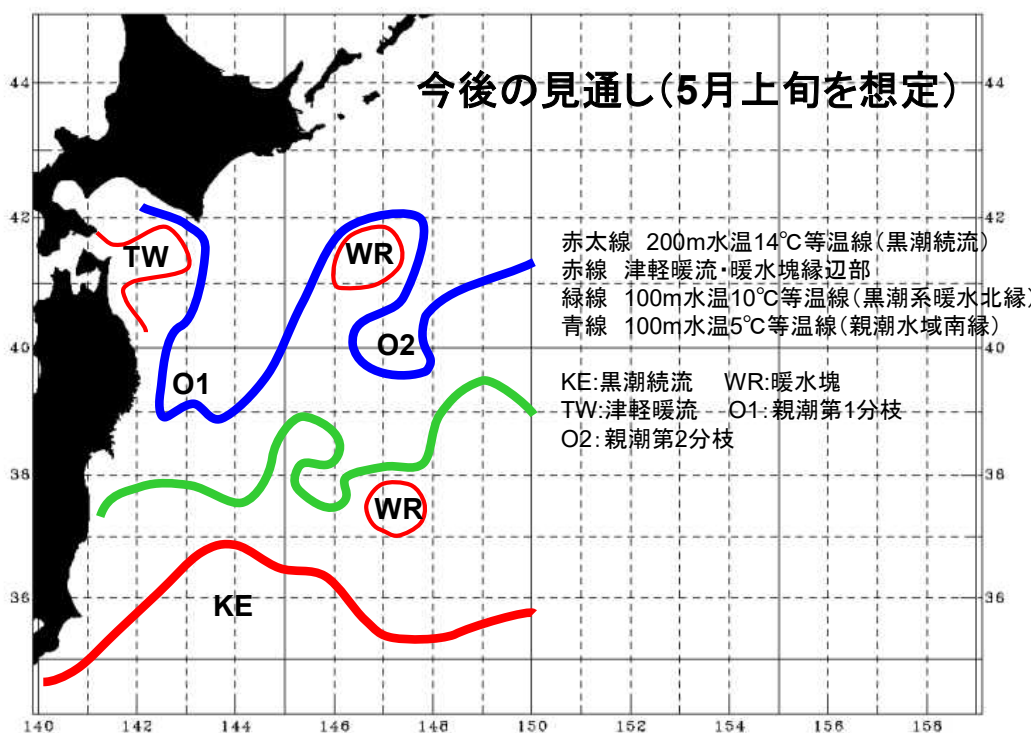
近海の黒潮統流の北限位置は、2月上旬～2月中旬に平年並み、2月下旬～4月上旬にやや北偏～極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しは、2月上旬～2月下旬にやや南偏～かなり南偏、3月上旬～3月下旬に平年並み、4月上旬にやや北偏で推移した。三陸はるか沖の暖水塊は下北半島はるか沖に移動した。常磐沖の暖水塊は黒潮統流に取り込まれ消滅した。金華山はるか沖に暖水塊、金華山沖に冷水域が形成された。

《現況（2019年4月中旬）の特徴》

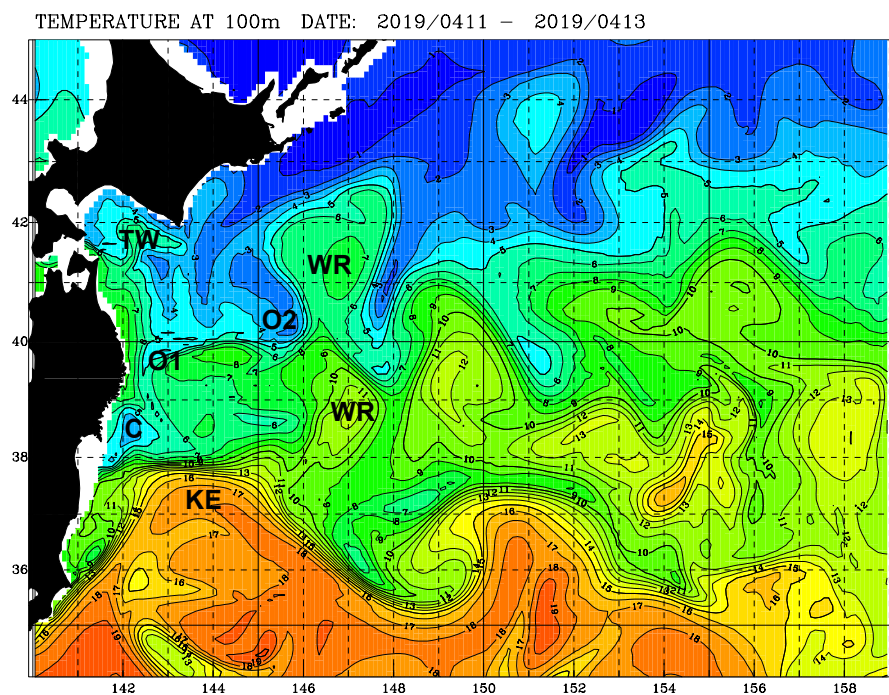
近海の黒潮統流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しは平年並みである。暖水塊が下北半島はるか沖、金華山はるか沖にある。冷水域が金華山沖にある。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

5月上旬予測水温分布図



4月中旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所
岩手県水産技術センター	(取りまとめ機関)
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所
福島県水産海洋研究センター	
茨城県水産試験場	